

[巻頭言]

広報活動について考える

三和コムテック(株)

柿澤 晋一郎

一般社団法人情報システム学会の理事会においてご推挙いただき、副会長、広報委員長を仰せつかっております柿澤晋一郎でございます。光栄なことであり、また責任の重さも感じております。会員の皆様、杉野会長をはじめ理事・役員や広報委員会・委員の皆様と力を合わせて本学会の発展のために微力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会杉野会長は、学会誌 Vol.7 No.1で本学会の目指すべき方向と役割は、真の意味での情報システムの専門家 (professional) 集団として、学界、産業界、一般市民など社会の多方面に貢献することであるとされました。このこと踏まえ本学会における広報委員会の役割と活動について少し考えてみたいと思います。

まず、広報委員会としては、委員会活動を本学会の目指す方向と役割のマーケティングであると、とらえております。マーケティングには、PR、宣伝広告、集客、販促活動などがあります。広報委員会は年間をとうしてこれらを実施することで、本学会の理念、活動を広く学会、産業界、一般市民に周知させ、結果として会員数の拡大など学会の発展、社会への貢献につなげていきたいと思っております。

そこで、広報委員会としてはこれまでの活動の成果、反省点を踏まえ、今後

次のような活動を進めるべく検討を重ねていきたいと考えます。

1. 研究発表大会、シンポジウム、懇話会、各研究会の活動、また提言の実施などについて、より強力にPRを展開していく方策を探ります。

2. これまで露出を増やしてきた情報システムやIT関連の出版媒体、WEBニュースなどに加え、Facebook、Facebook Page、Twitter 新しいソーシャルメディアの活用の検討を進めます。

3. 本学会の他学会には無いユニークな「提言」活動について、これまでのニュースリリースを出し、学会WEBに掲載してユーザーの閲覧を待つ、というレベルから、もう少し踏み込み、幅広い一般紙などの媒体へ働きかけ、提言の内容を掲載したり、インタビューなど取材してもらうように進めるための工夫をしていきたいと思っております。また産業界や行政などへ働きかけ、多くの人が集まる企業や公的団体の会合などで本学会のメンバーが講師を務め、提言について話す機会を作っていく検討を進めます。

4. 多くの有力なITベンダー、SIer、ISV(Independent Solution Vendor)、は、自社の顧客企業、パートナー企業、などの社員を対象にした研究会組織を運用しています。こうした産業界の研究者集団の規模はかなり大きく、大小合わせて10万人以上に上ると思われます。ここにフォーカスした情報発信、PR活動も視野に入れたい、と考えています。

Shinichiro Kakizawa

三和コムテック(株)

[巻頭言] 2012年3月18日受付

©情報システム学会

こうした活動の具体化のための検討をすすめ、可能性の高いものから実行に移していくことで、広報委員会は本学会の目指す方向と役割の普及に貢献したいと思います。

ぜひ会員の皆様の忌憚のないご意見、ご批判などを頂ければと存じます。